

「平成 29 年度 市民自治を考える
市民ワークショップ」企画運営業務

報 告 書

平成 30 年 3 月

札幌市市民文化局市民自治推進室

目 次

第1章 開催概要	1
1 開催目的.....	1
2 事業概要.....	1
(1) ワークショップテーマ.....	1
(2) 参加者選出.....	1
(3) 開催日時等.....	2
第2章 ワークショップの実施方法	3
1 当日のスケジュール.....	3
2 ワークショップにあたって.....	4
3 ワークショップの概要.....	5
(1) グループの編成.....	5
(2) ワークショップの流れ.....	5
第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施	7
1 アイスブレイク.....	7
(1) 町内会クイズ.....	7
2 情報提供.....	8
(1) 現状の町内会と社会情勢の変化.....	8
(2) 町内会を元気にして行くための取組事例.....	9
3 ワークショップ.....	11
(1) ワークショップ① これからの町内会のあるべき姿は？.....	11
(2) ワークショップ② 町内会 劇的!!ビフォーアフター.....	13
第4章 参加者アンケート	20
1 アンケート実施概要.....	20
2 アンケートの質問項目と結果.....	20
3 参加者アンケート結果のまとめ.....	31
(1) 参加者について.....	31
(2) 参加者アンケート結果.....	31

第5章 ワークショップの考察	33
1 これからの町内会のあるべき姿について.....	33
(1) 町内会に求められる役割と町内会のあるべき姿.....	33
(2) 町内会のあるべき姿に向けた必要な仕組みや役割.....	33
2 町内会のあるべき姿に向けた町内会と札幌市のやるべきこと.....	35
(1) 町内会のやるべきことについて.....	35
(2) 札幌市のやるべきことについて.....	35
第6章 資料編	36
1 配布資料.....	36
(1) 進行パワーポイント.....	36
(2) 情報提供パワーポイント.....	41
2 アンケート票.....	47
3 グループごとの意見.....	49

第1章 開催概要

1 開催目的

町内会は、地域コミュニティの中核を担い、一人ひとりが安心して快適に生活ができるよう、いろいろな活動をしている。

しかし、近年、社会状況や生活様式の変化により、町内会では役員の担い手不足や、参加者の減少等が課題となっている。札幌市もさまざまな側面から支援を行っているが、今後さらに少子・高齢化が進み、地域課題が複雑多様化する中で町内会を活性化させるためには、幅広い世代の町内会活動への参加を促進することが大切である。

そこで、今後、より幅広い世代の市民が町内会に参加するためのアイデア等について意見を集め、今後の札幌市の取組や施策等に役立てていくほか、町内会に関する条例の検討に向けての参考とするためにワークショップを開催した。

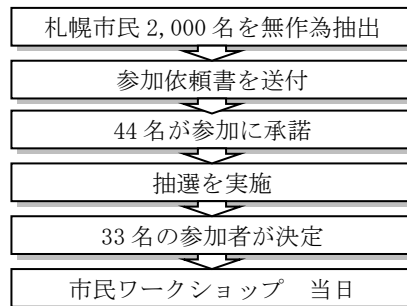
2 事業概要

(1) ワークショップテーマ

「町内会 劇的！！ビフォーアフター」

(2) 参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、住民基本台帳から無作為に抽出した2,000名の市民に参加案内を行い、申込者44名から抽選で33名を選出した。その後、体調不良等による欠席があり、当日参加者は28名であった。



○例年、参加者決定後に複数の方が辞退されていることから、定員30名に対して、今年は参加者を33名とした。

■参加者数内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	1	0	2	2	3	4	3	15
女性	0	2	2	3	1	3	2	13

(3) 開催日時等

仕事等で平日は忙しい方が多いことを想定し、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、土曜日の開催とした。

なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には謝礼を支払った。

日 時	平成 30 年 1 月 27 日 (土) 13 : 00 ~ 16 : 00
場 所	わくわくホリデーホール (札幌市民ホール) 2 階 第 1 会議室
参加者数	28 人

第2章 ワークショップの実施方法

1 当日のスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。

13:00	開会（10分） <ul style="list-style-type: none">・開会のあいさつ・ワークショップの主旨と一日の流れの説明
13:10	アイスブレイク（15分） 『町内会クイズ』 <ul style="list-style-type: none">・町内会の役割や活動、参加状況などを○×クイズの形式で確認
13:25	情報提供①（15分） <ul style="list-style-type: none">・札幌市の町内会を取り巻く現状・町内会の役割や活動内容、町内会が抱える課題
13:40	ワークショップ①の進め方の説明（5分）
13:45	ワークショップ①（35分） 『これからの町内会のあるべき姿は？』 <ul style="list-style-type: none">・社会情勢の変化を踏まえ、今度町内会が強化すべきことや求められる役割を考える・自分ごととして、町内会がどうあればよいか考える
14:20	—休憩（10分）—
14:30	情報提供②（15分） <ul style="list-style-type: none">・札幌市及び他都市の町内会活性化の事例を6つの視点から紹介 (交流、つながりづくり、活動への参加、意識の醸成、情報発信、加入促進)
14:45	ワークショップ②の進め方の説明（5分）
14:50	ワークショップ②（45分） 『町内会 劇的！！ビフォーアフター』 <ul style="list-style-type: none">・3つのモデル町内会（あまりうまくいっていないものなど）から1つを選び、改善のアイデアを考える・「町内会のあるべき姿」に向けて、「町内会がやるべきこと」と「札幌市がやるべきこと」の視点から考える
15:35	発表・まとめ（20分） <ul style="list-style-type: none">・各グループの結果発表を受けて、一日のまとめをする。
15:55	閉会（5分） <ul style="list-style-type: none">・閉会のあいさつ、参加者アンケートの記入

2 ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

■当日の案内

平成 29 年度 市長自治を考える市民ワークショップ

参加についてのご案内

ご参加にあたってのご案内事項。注意事項などを記載しています。事前にお読みください。不明な点などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は最後に掲載しています。）

ワークショップの概要

町内会は、地域コミュニティの中枢を担い、一人ひとりが安心して快適に生活ができるよう、いろいろな活動をしています。しかし、近年、社会状況や生活様式の変化により、町内会では役員の手不足や、参加者の減少が深刻となっております。札幌市においてもさまざまな組織から支援を行っていますが、今後さらに少子・高齢化が進み、地域課題が複雑多様化する中で課題解決に向けた取り組みは、幅広い世代の方々による町内会活動への参加と促進することが大切です。このワークショップでは、今後、より幅広い世代の皆さまに町内会に参加していただくためのアイデア等について、ワークショップ形式（少人数のグループで自由に意見を出し合っている形式）で話し合っていました。皆さまからいただいたご意見は、今後の市の取組や施策等に役立てていければ、町内会に関する条例の検討に向けての参考となります。

日時

平成 30 年 1 月 27 日（土）13:00～16:00（12:30 受付開始）

- ・ 受付は 12:55 までとさせていただきます（参加者確認票・参加者確認票・口座振替申請書）をご提出ください。
- ・ ワークショップ会場（第 1 会議室）の開始は 12:30 頃を予定しています。

会場

札幌市民ホール 2 階 第 1 会議室（札幌市中央区北 1 条西 1 丁目）

- ・ アクセス：地下鉄「大通駅」31 番出口直直
- ・ 参加者の駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただくか、近隣の駐車場をご利用ください。
- ・ 交通費、社費等は参加者自費となりますのでご了承ください。

<> 階フロア図>

当日ご持参・ご提出いただくもの（事前の記載・捺印必要）

「参加者確認票 兼 口座振替申請書」……この形に同封しています。

- ・ 参加者の振込先口座について、「口座振替申請書」の必要事項のご記載と捺印をお願いします。
- ・ ご記載にあたっては、「口座振替申請書」の注意事項（※1～5）をよくご覧ください。

参加報酬について

金銭報酬は参加された方に、ワークショップ終了後に、参加報酬を口座振込でお支払いいたします。

- ・ 参加報酬は 3,000 円で、源泉徴収はございません。ワークショップ終了後、1 か月程度での入金となります。
- ・ 未領・当日のお支払い、口座振込以外の方法での支払いもいたしません。
- ・ 「参加者確認票 兼 口座振替申請書」を当日お忘れになった場合や、記載に誤りや漏れなどの不備がある場合は、振込が大幅に遅れることがあります。記載内容を今一度よく確認の上、当日忘れずに持参ください。

参加できなくなった場合

万一、参加できなくなった場合は、必ずご連絡をお願いします。（連絡先は最後に掲載）

- ・ 今回のワークショップは、抽選により辞退されている方がいらっしゃることも考慮の上、特段のご手配がない限り、ご出席くださいますようお願いいたします。
- ・ やむを得ず参加できなくなった場合は、できるだけ早くご連絡くださいますようお願いいたします。

当日、交通事情などにより遅れる場合

当日遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いします。（連絡先は最後に掲載）

- ・ 天候によっては移動に時間がかかることも考えられます。余裕をもってお出がけください。
- ・ 会場へのご到着が遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いします。ご連絡がなく、開始時刻から相当時間を経過した場合は、ご欠席と判断させていただきます。

その他

- ・ 館内及び敷地内は禁煙です。館内及び敷地内での喫煙はご遠慮ください。
- ・ ワークショップは、携帯電話の電源を適切に切ったり、マナーモードに設定してください。
- ・ 本市のホームページに掲載するため、写真を撮影いたします。また、ワークショップは公開となりますので、報道機関や見学者が入る可能性があります。本庁や報道機関が撮影する写真や映像などに映り込む可能性がありますので、ご了承ください。

ご連絡先・お問い合わせ先

平日のご連絡・お問い合わせ先

0 1 1 - 2 1 1 - 2 2 5 3（札幌市役所 市長自治推進課）

ご連絡可能な時間帯 8:45～12:15 または 13:00～17:15

※ 閉庁外には応答できない可能性があります。また、市役所閉庁日（土曜・日曜・祝日）は応答できませんので、あらかじめご了承ください。

ワークショップ当日（1月27日）のご連絡・お問い合わせ先

0 9 0 - 6 2 6 7 - 9 4 6 4（当日の緊急連絡専用電話）

ご連絡可能な時間帯 平成 30 年 1 月 27 日（土）12:00～13:30

※ 上記時間帯以外には応答できませんので、あらかじめご了承ください。

4

3 ワークショップの概要

ワークショップは「町内会 劇的！！ビフォーアフター」をメインテーマに設定して、2部構成で行った。

(1) グループの編成

意見交換は6グループ（1グループ4～5名程度）を作り、ワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①の議論を受けて、ワークショップ②ではより深い内容を話し合うことができるよう、グループの再編成は行わなかった。

また、意見交換を円滑に進めるため、各テーブルにファシリテーターを1名ずつ計6名配置し、参加者の意見を引き出すこととまとめ役を担った。

(2) ワークショップの流れ

1) 進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

2) ワークショップ①『これからの町内会のあるべき姿は？』（35分）

情報提供を受けて、今後の社会情勢の変化など（高齢化の進行、防災の備え、子育ての大変さ）を考えたときに、町内会がどのようなことを強化したらいいか、どのような役割を担うことが必要かを考えてもらった。

また、自らの現状の町内会とのかかわりを踏まえつつ、今後を考えたときに自分ごととして町内会がどうあればよいかを考えてもらった。

①テーブルファシリテーター及び参加者の自己紹介【5分】

1人目安として1分ぐらいで自己紹介をしてもらった（名前、住んでいる区など）。

②町内会に必要な役割、強化すべき機能【30分】

社会情勢の変化を踏まえて、町内会がどうあるべきか、現状の町内会への関わり方を踏まえながら考えてもらった。

安心安全な地域につながる防災や見守り、暮らしやすいまちにするためのごみや除排雪、さらには交流やにぎわいなど、さまざまな視点から町内会のあるべき姿について意見を出してもらった。

3) ワークショップ①のまとめ

総合ファシリテーターがワークショップ①でどのような議論がされたか、全体で議論内容をまとめ、共有した。

4) ワークショップ②『町内会 劇的！！ビフォーアフター』（45分）

一般的な町内会の現状や課題から、町内会のモデル（あまりうまくいっていないもの、今後懸念されるもの）を3つ提示し、それらに対して、ビフォーアフターの匠になったと想定して、グループごとに改善のアイデアを出してもらった。

ワークショップ①での“町内会のあるべき姿”に向けて、どのように町内会をよくしていけばいいかについて、「町内会がやるべきこと」や、それに対して、「札幌市がやるべきこと」の視点から考えてもらった。

意見交換の内容は次のとおりである。

①トークテーマの選択【5分】

3つのモデル町内会（あまりうまくいっていないもの）のうち、1つを選んで意見交換のテーマとした。

②町内会のあるべき姿に向けたアイデア【45分】

モデル町内会を、ワークショップ①で話し合った“町内会のあるべき姿”に向けて活性化させるため、「札幌市がやるべきこと」と「町内会がやるべきこと」の視点からアイデアを出してもらった。

その際、情報提供に沿って「交流」「つながりづくり」「活動への参加」「意識の醸成」「情報発信」「加入促進」の視点で意見を聞き取った。

また、「意識の醸成」の部分では、札幌市で検討している「町内会に関する条例」についての意見も出してもらった。

5) グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、1グループ約2分程度で発表を行った。

6) まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容の意見傾向等をまとめ、確認した。

第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施

1 アイスブレイク

参加者全員で会場前方に集まり、知っている町内会活動や参加したことのある町内会活動について〇×クイズを行った。

町内会に関する情報提供を行う前のフラットな状況で、参加者の町内会活動の役割や参加状況などについて、クイズを通して確認した。

■町内会クイズ

自分の町内会の町内会名や町内会の役割は、知っている人がいずれも7割程度であった。町内会の必要性についての設問に対しては、ほぼ全員が「必要である」という回答であった。

クイズの設問

- 自分の町内会の“町内会名”を知っている！？
- これって町内会がやっていること？（街灯の管理、ごみステーションの管理）
- この活動に参加した事がある？ない？（夏まつり、清掃活動）
- あなたにとって町内会は必要？



2 情報提供

(1) 情報提供①「現状の町内会と社会情勢の変化」

札幌市より、札幌の人口及び高齢化率の将来推計を紹介した。また、人口減少や少子高齢化が進む場合に懸念されること、その解決のための地域コミュニティの必要性について情報を提供した。

また、地域コミュニティの中核である町内会の取組や役割、必要性、加入率などの現状に加え、町内会活動における課題などを紹介した。

■札幌の人口推計及び高齢化率の推計

平成 22 年度の国勢調査をベースに、札幌の将来人口推計と高齢化率の推計結果を紹介した。

人口及び高齢化率の推計

- 人口：2035 年には約 180 万人まで減少すると推計
- 高齢化率：増加が見込まれており、2035 年には高齢化率が 35.1%になると推計

■人口減少、少子高齢化による懸念

人口減少や少子高齢化が進行する場合、地域において懸念されること、懸念事項から地域コミュニティ活性化の重要性について説明した。

懸念されること

- 地域コミュニティ（地域住民同士のつながりや連帯感）の希薄化
- 単身高齢世帯等の増加（見守りや支え合いなど孤立化対策）
- 空き家の増加
- 子どもの安心安全
- 生活利便機能の低下（買物難民、除排雪）
- 地域活動の担い手不足（各種地域行事の維持困難化） など

■町内会の活動や役割

町内会の役割や活動内容について、市内の町内会の活動カレンダーの事例や過去のアンケート結果を用いて紹介した。

■さっぽろの町内会の現状

札幌市内の町内会加入世帯及び加入率について、紹介した。また、世代別の加入率も紹介し、20 代以下の加入率が他の世代と比べて低いという説明を行った。

■町内会活動における課題

町内会・自治会に関するアンケート調査結果（平成 28 年 3 月）から、町内会役員の担い手不足や役員の高齢化、参加者の固定化などの課題が多く挙げられていることを紹介した。

(2) 情報提供②「町内会を元気にしていくための取組事例」

札幌市より、札幌市内及び他都市の町内会活性化の取組の事例を紹介した。事例は、「交流」「つながりづくり」「活動への参加」「意識の醸成」「情報発信」「加入促進」の6つの視点で紹介した。

合わせて、札幌市の取組として、町内会支援の事業などの紹介も行った。

■交流の取組事例

○あすなろ大学「夏の子ども教室」(札幌市東区)

老人クラブメンバーが子どもの夏休みの宿題支援を行ったり、特別授業を行うことで多世代交流が図られている。

○てつほく あそびねっと(札幌市手稲区)

陸のカーリング「ペタンク」と、手稲区のマスコットキャラクター「ていぬ」を組み合わせ、『ていぬペタンク』を発案し、毎年大会を開催している。子どもからお年寄りまで幅広い世代で楽しめる競技で、多世代交流に寄与している。

■つながりづくりの取組事例

○発北キラキラ 7days(札幌市西区)

毎年7月の1週間、「地域内一斉環境美化週間」を設定し、町内会・小学生・中学生・PTA・商店街・企業など多くの活動主体が連携して「オール発寒」として、地域ぐるみで清掃活動や花壇整備などを行っている。

○ふれあいボランティア除雪(札幌市清田区)

地域内の企業「北海道コココーラボトリング(株)」、札幌国際大学、町内会、まちづくりセンターなどが協力して、高齢者宅やごみステーション、消火栓の周りなどを除雪している。

■活動への参加の取組事例

○お助けマン(愛知県知多郡阿久比町)

老人クラブの会員が「お助けマン」として、地域の高齢者の「小さな困りごと」を解決するためのお手伝いを行っている。(お助けメニュー：電球交換、刃物研ぎ、重い物の移動、簡単な大工仕事、パソコン代筆、一緒に散歩、一緒にお話など)

○市民センター町内会(福岡県北九州市小倉南区・企救丘校区連合会)

町内会がない地域や、解散されてしまった地域など、町内会に入りたくても入れない方の受け皿を作り、ホームページなどで加入を呼びかけている。

■札幌市の取組(交流、つながりづくり、活動への参加)

- 地域コミュニティ活性化推進事業
- 若い世代の担い手育成
- 地域マネジメント推進事業

■意識の醸成の取組事例

○フラワーロード事業（豊平区・福住地区）

町内会連合会、町内会、小学校、まちづくりセンターが協力して、道路や公園などに花を植えている。取組を通じて、地域の連帯感の醸成・地域の魅力向上、地域活動への参加の意識醸成に寄与している。

○炊き出しフェス（川崎市高津区・溝の口地区）

大型マンション3棟（約2,300戸）合同開催の防災イベントを実施している。マンション住人以外も参加可能で、非常食を使った料理教室、ダンボールを使った災害シミュレーション、親子ワークショップ、チャリティコンサートなどを行い、地域の一大行事になっている。

■情報発信の取組事例

○桑園かわら版（中央区・桑園地区）

地域情報を伝えるホームページとA2版ポスターを作成している。札幌大通高校の学生、町内会役員、他地区の大学生、会社員などが、ボランティアとして制作に携わっている。

ポスターは、マンション、店舗、スーパー銭湯、病院など各所に掲示しており、地域に浸透してきている。

○町会アプリ「じぷり」（函館市・陣川あさひ町会）

公立はこだて未来大学の学生の協力により、町会アプリ「じぷり」を製作した。納涼祭やウィンターフェスティバル、お泊まり会などのイベント情報を見ることができる。

また、町会のイベントへの参加申込ができるほか、ごみ収集日や災害警報などの情報を受け取ることができる。

■加入促進の取組事例

○町内会加入促進委員会（札幌市白石区）

白石地区連合町内会が旗振り役となって、「町内会加入促進委員会」を立ち上げ、徹底的な議論、研修、意見交換会などを行い、組織的・専門的に検討を行った。その結果、活動の「見える化」により、町内会活動の重要性を知ってもらうことで、加入者増につながった。

○参加しやすい自治会づくり（神奈川県相模原市中央区・小山2丁目自治会）

以下のように複数の会員制度を設け、住民それぞれの立場に応じて、参加しやすい環境を整備。ホームページでの情報発信などによる活動状況の周知も積極的に実施している。

- ・特別会員（賃貸の1人暮らしの住民）：活動への参加不要、防犯灯など受益者相当分を負担
- ・賛助会員（地域内事業者）：花火大会での屋上駐車場の開放や景品の提供などの地域貢献
- ・協力員（常時参加が難しい人）：イベント単位で参加・協力することができる

■札幌市の取組（意識の醸成、情報発信、加入促進）

○若い世代の担い手育成

○町内会未来塾

○町内会への参加を啓発

○アドバイザー派遣

○町内会に関する新たな条例の検討

○各種広報媒体

2 ワークショップ

(1) ワークショップ① 『これからの町内会のあるべき姿は？』

主な議論のテーマ

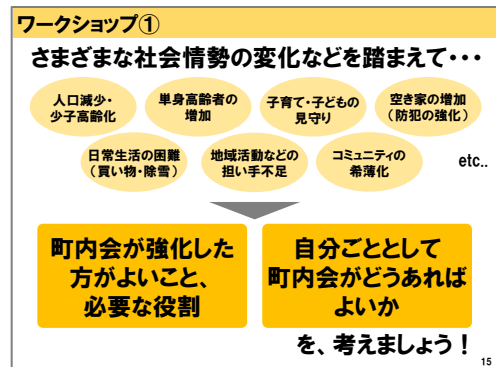
- 今後の町内会でどのような役割が大切になるか
- どのような町内会だったらよいか

1) ワークショップ①の進め方

あらかじめ振り分けた 4～5 人ずつのグループに分かれて意見交換を行った。

札幌市市民自治推進課の高橋係長による『現状の町内会と社会情勢の変化』の情報提供を受け、今後、町内会がどのようなことを強化したらいいか、どのような役割を担うことが必要かを考えてもらった。

考えるときの視点として、自らの現状の町内会とのかかわりを踏まえつつ、今後を考えたときに自分ごととして町内会がどうあればよいかを考えてもらった。



■ワークショップの様子



2) 主な意見

今後懸念される社会情勢の変化を踏まえ、これからの町内会のあるべき姿を考えた。町内会のあるべき姿としては、「つながり」や「顔の見える関係」というような、交流がある地域という意見が多く出された。

また、町内会の大切な役割として、「ごみステーションの管理」や「除排雪」といった生活環境の維持に関すること、そして「安心安全」が重要な役割という意見が出された。

一方で、町内会の役割だけでなく、情報発信や住民の意識を高めるなど、現状の課題に対する取組についての意見も多く出された。

■町内会のあるべき姿

- 住民同士の顔の見える町内会
- 交流・賑わい・見守りがあるまち
- 住んでみたいと憧れるような町内会

■今後の町内会での大切な役割

- 地域の安心安全
- 高齢者などの見守り
- ごみステーションの管理
- 除排雪
- 子育て・子どもの見守り
- 交流事業

○地域の安心安全

【空き家対策】

- ・空き家対策は町内会で行ってほしい。
- ・空き家になる前に町内会でケアできるとよい。

【防災活動】

- ・災害時のために日頃からのつながりづくりが大切である。
- ・災害時は必ず集まる場所を決めておくことや、高齢者がどこに住んでいるかを知っておく必要がある。
- ・健康づくりと合わせて、避難経路を歩くなど、住民を巻き込んだ防災のイベントを町内会が行うとよい。

○高齢者などの見守り

【見守りの必要性】

- ・一人暮らしの高齢者の見守りが、今後の課題である。
- ・地域で単身高齢者の見守りがあると、その家族も安心できる。
- ・高齢者に限らず、引きこもりの単身者の見守りが必要である。
- ・見守られたくない人もいるため、関わり方が課題になる。

【見守りの手段】

- ・回覧板も見守りにつながっている。
- ・防犯ベルやブザーを単身高齢者宅に配布し、何かあった際は担当の町内会の人駆けつけ

る仕組みがあるとよい。

- ・給湯やトイレでセンサーを設置し、遠隔で安否確認できるようにするとよいが、お金がかかるため、お金のない人への対応が課題になる。

○ごみステーションの管理

- ・ごみステーションの管理は大切な役割である。
- ・ごみの出し方やマナーが悪い住民がいて、カラス被害も深刻になるため、町内会での管理と住民への意識啓発が必要である。
- ・持ち回りでゴミステーションを管理するなど、住民同士で協力し合って管理できる体制が必要である。

○除排雪

- ・除雪は単身高齢者にとって負担であるため、町内会でのサポートがあるとよい。
- ・ボランティアではなく、町内会を通じて学生や若者へアルバイトでお願いする仕組みができるとうよい。

○子育て・子どもの見守り

【子どもの見守り】

- ・地域で子どもを見守り、地域で子育てするまちになるとよい。
- ・地域住民で子どもの見守りをしてくれたら、安心して遊ばせられる。
- ・街頭での子どもの見守りも大切な役割である。

【子どもを通じた交流】

- ・引っ越して来た人は地域に馴染めず大変であるが、子どもを通じた交流があれば、仲良くなりやすい。
- ・地域の人と子ども達が顔見知りになって、あいさつしあう関係づくりができるとうよい。
- ・夏祭りなど、子どもたちの楽しみや交流があるとよい。
- ・子どもの頃から町内会に関わることで、将来的な担い手にもつながる。

○交流事業

【交流の機会づくり】

- ・住民同士で人となりが分かると、お互いに思いやり持って関わるができる。
- ・ラジオ体操など交流や楽しみの行事を通して顔見知りになり、単身高齢者の心配をし合える関係になるとよい。
- ・特にマンションの場合は、住民が集まる日を月 1 回設けるなど、定期的に行うと良いのではないかな。

【交流の場づくり】

- ・コミュニティの拠点となるので、交流の場は必要である。
- ・高齢になると外出する機会が少なくなるので、交流の場があると良い。

【多世代交流】

- ・幅広い世代での交流があるまちになるとよい。
- ・交流事業に若い人に参加してもらい、その人に除雪のサポートを行ってもらうなど、町内会の取組の担い手を見つける場になるとよい。

■町内会の課題・必要なこと

○情報発信

○負担の軽減

○多くの住民の参加

○事業の見直し

○情報発信

- ・回覧するチラシの作成を業者に委託して、デザイン的に魅力があると参加者が増えるのではないかと。
- ・町内会がどのような活動をしているかを発信する必要がある。
- ・回覧は、あまり見られていないと思う。
- ・お手伝いしてくれる人が増えるような呼びかけが必要ではないかと。
- ・年1回の総会で、町内会の大切さを住民に伝えるとよい。

○負担の軽減

- ・町内会でやるべきことが多く、負担感がある。
- ・会費の回収は班長さんにとって負担である。

○多くの住民の参加

- ・町内会活動に参加に応じたポイント制度を設けるなど、参加のメリットをつくって多くの住民に参加してもらう工夫が必要。
- ・役員が固定化しているため、一人でもいいから、若い方が入っていると良い。
- ・関心が低い人の意識をどう変えていくかが課題である。
- ・隣の町内会と連携した取組で参加者の関心を高めることも考えられる。

○事業の見直し

- ・ほとんどの町内会では、イベントやお祭り、スポーツ、見回り、交通安全など色々とやりすぎではないかと。
- ・町内会ですべてをやることは無理なので、各町内会での一番の緊急課題に対応した取組を行うべきである。

(2) ワークショップ② 『町内会 劇的！！ビフォーアフター』

主な議論のテーマ

- 町内会の仮想のモデルに対して、どうしたらよいか
- 町内会がどうあるべきか、札幌市はどうすることが必要か

1) ワークショップ②の進め方

ワークショップ①と同様のグループで意見交換を行った。

札幌市市民自治推進課の高橋係長による『町内会を元気にしていくための取組事例』の情報提供を受け、さまざまな課題を抱える町内会が元気になるためには、どのようなことが必要かを考えてもらった。

具体的なアイデアを出してもらうため、町内会のモデルを3つ提示し、それらに対して、グループごとに改善のアイデアを出してもらった。

アイデアを考える際、ワークショップ①での“町内会のあるべき姿”に向けて、「町内会がやるべきこと」と「札幌市がやるべきこと」の視点から考えてもらった。

ワークショップ②

3つのモデル町内会のうち、グループで話し合うものを1つ取り上げます

ケースA
老人ばかりの町内会

ケースB
顔もわからないまち

ケースC
町内会の中に2つの町内会？

21

ワークショップ②

みなさんは、**町内会リフォームの匠**です！

モデル町内会の課題を改善(リフォーム)するためのアイデアを考えましょう。

課題を抱える町内会 → 札幌市がやるべきこと / 町内会がやるべきこと → 町内会のあるべき姿

※ワークショップ①での意見より

「札幌市がやるべきこと」「町内会がやるべきこと」の視点から考える

22

■3つのモデルケース

○ケースA：老人ばかりの町内会

○高齢者が暮らしていけなくなる

ここは、郊外部に位置する約100世帯の戸建てが多い町内会。
町内会に入っている人は多く加入率は比較的高いものの、高齢化が著しく、回覧板を回したり、冬の家前の除雪をしたりすることが難しくなっている。
地域には一人で暮らす独居老人も多く、見守り活動をしているが、今後も高齢者の単身世帯が増えていくことが一番心配のタネになっている。
町内会活動は必要だと感じているものの、だんだんその意識も薄れつつあり、町内会を抜けると言う住民もちらほら見始めている。

○消え行く町内会活動

町内会役員の平均年齢が80歳であり、新しい役員の担い手も見つからない。
役員の高齢化により夏祭りなどのイベントも行うことができなくなり、ゴミステーション管理や除雪などの最低限の活動のみとなっている。
これから定年を迎える団塊の世代はいるが、役員の依頼をするも断られてしまう。

○将来的に町内会はどうなってしまうのか

このまま5年10年経つと、町内会に加入する人も少なくなり、運営するための人も財源もままならなくなってしまう。
将来的に、若い世帯が入ってくることも期待される場所であるが、町内会に入るのか、活動が活性化されるのかはわからないことも心配。
今後、住民が町内会の大切さを認識し、加入や活動への参加するための取組が求められている。

○ケースB：顔もわからないまち

○若い世代の関心がない

駅に近くアパート・マンションが多く立ち並ぶ町内会。

都心にも近く、駅にも近いことから利便性が高く、単身の働き世代が多く住んでいるため、日中、地域に人は少なく、いるのは高齢の人のみ。

利便性を求めて新しく住み着く若い世代も多く、町内会など地域への意識や関心はほとんどなく、地域のなかのつながりは全く見られない。

町内会がゴミステーションなどを管理していること、街灯を管理していること、住民の安全な暮らしを守るための防犯パトロールなどを町内会の高齢者が行っていることももちろん知らない。

地域のなかでお隣さんとのつながりや顔を知っている関係などはなく、近所の人顔が全くわからない町内会となっている。

○誰もかかわらない町内会とその活動

町内会では、ボーリング大会やウォーキングイベントなどを開催しているが参加者はあまり多くない。特に若い世代の参加はほとんど見られない。

また、町内会では、積極的に加入促進の取組を行っているものの、なかなか町内会独自の取組では限界が近づいてきているところ。

○身の回りには暮らしの危険がたくさん

防犯の事件なども最近多発しており、防災に関してもこれから心配な地域となっている。

○ケースC：町内会の中に2つの町内会？

○二分する若い世代と高齢者

閑静な住宅地で、戸建てと集合住宅が混ざっている地域。

もともと長年住んでいる人が多い地域だったが、最近では、戸建ての分譲住宅も増え、就学前の子どもから小中学生の子どもを持つ世帯が増えつつある。

いまでは300世帯程度が住むなか、若い世代は町内会にあまり入ることなく、200世帯程度しか町内会には加入していない。

地域には、長く住んでいる高齢者がいろいろな行事を企画し開催している町内会と、子どもを通じた若い世代のコミュニティが二分していて、まさに、町内会のなかに2つの町内会があるといっても大きさではない町内会になっている。

○つながりがないまち

町内会では、お祭りなどの子ども向けの行事を行っており、子どもの参加は見られるがその親世代とのかかわりがなく、顔ぶれがほとんどわからない状態。

町内会が行っている清掃活動や交通安全の取組、防災の活動なども若い世代には知られていなく、町内会の大切さが浸透していない。

○助けを呼べない地域

地域の真ん中には、数十年に一度氾濫する川が流れており、長く住む高齢者は常日頃から防災に気を付けている。

もし、また災害が起きたら住民同士の助け合いが求められるが、昨今の状況に、町内会は大きな不安を抱えている。

■ワークショップの様子



2) 主な意見

町内会の活性化のために、町内会がどのような取組を行うと活性化につながるか、また、どのような団体と連携していくべきかを考え、加入促進や活動への参加、交流などについてのアイデアが出された。

また、そのためには札幌市がどのようなことをやるべきか意見を出してもらった。
主な意見は以下のとおりである。

■町内会がやるべきこと

- | | |
|-----------|----------|
| ○町内会の加入促進 | ○交流の場づくり |
| ○住民の参加促進 | ○交流事業 |
| ○役員の担い手確保 | ○情報発信・共有 |
| ○子どもの見守り | ○他団体との連携 |

○町内会の加入促進

- ・会員をレベル分けして、単身者は会費を安くするなど、ハードルを下げて加入のきっかけをつくる。

○住民の参加促進

- ・参加のメリットとして、報酬や税金の軽減、町内会費の免除、お礼の品などを渡すとよい。
- ・町内会活動への参加が、大学の単位や推薦入学の強みになると学生も参加してくれる。
- ・住民の特技を活かして参加できる取組があるとよい。

○役員の担い手

- ・強制的に役員になってもらうよう、輪番制にしてはどうか。
- ・若い人や班長がいきなり役員になるのはハードルが高いため、サポーター制度があるとよい。
- ・町内会会員で高齢者と若者を混ぜて、役割を強制的に割り振る。
- ・会長や役員は任期制とすることで、不正も防止できる。

○子どもの見守り

- ・子どもの頃から町内会に触れる機会をつくる。
- ・地域での子育ても必要である。

○交流の場づくり

- ・住民同士で気軽に集まって、困りごとなどを話し合える場があるとよい・交流の場は必要。
- ・お茶会などの交流会は月1回でもよいのでやるべきである。
- ・お茶会で世間話をしながら町内会の会議を行うと、若い人も参加しやすくなる。

○交流事業

- ・挨拶運動やラジオ体操で交流の機会を増やす。
- ・食べ物やお酒を提供するイベントは、人が集まる。
- ・人がたくさん集まるイベントで顔見知りになる。
- ・子ども食堂で高齢者が食事をつくり、子どもと交流する。

- ・ペットの話など、テーマに沿ったコミュニティをつくと世代に関わらず交流ができる。

○情報発信・共有

- ・町内会費が何に使われているか、見える化が必要である。
- ・SNS で若い世代へ情報発信する。
- ・スーパーの会計時に町内会のビラを渡してもらう。
- ・町内会のジャンパーなど、町内会活動をしているということが一目でわかるようにする。
- ・街灯の管理など、町内会の役割を伝える必要がある。
- ・町内会は大変そうというイメージを払拭するための情報発信をするとよい。

○他団体との連携

【企業や施設、学校との連携】

- ・町内会活動の参加者に地域のお店の割引を付けるとよい。
- ・スーパーや企業は、災害時に食料などを提供してもらえるような関係づくりが必要。
- ・学校が中心となって地域の人と町内会を繋げてもらうとよい。

【他の町内会との連携】

- ・連合町内会や近隣の町内会と連携して事業を行う。
- ・隣の町内会と合併するのもよいのではないか。

【外部委託】

- ・困っていることは無理して自分たちだけでやる必要はないため、外部委託するとよい。

■札幌市がやるべきこと

- | | |
|-----------|------------|
| ○町内会の加入促進 | ○情報発信・共有 |
| ○住民の参加促進 | ○他団体との連携 |
| ○高齢者の見守り | ○条例の制定について |
| ○交流の場づくり | ○その他の支援 |

○町内会の加入促進

- ・健康保険や市税と同じように、町内会への加入を義務化する。
- ・町内会への加入について、条例に内容を盛り込む。
- ・引っ越しの手続きの一環で、加入の手続きも行うようにすると良い。

○住民の参加促進

- ・住民の参加について、条例に内容を盛り込むとよい。

○高齢者の見守り

- ・高齢者の見守りは行政、企業、施設との連携が必要である。
- ・見守りは町内会だけでは限度があるため、見守りやすい仕組みを札幌市が作るべきである。

○交流の場づくり

- ・交流の場をつくることを支援して欲しい。

○情報発信・共有

- ・世代に合わせた情報発信をしていくとよい。

- ・市内全町内会で一斉に清掃活動を行うとマスコミも入って話題になるのではないかな。
- ・町内会の役割をもっとPRする。
- ・町内会の加入方法についての情報発信の強化が必要である。
- ・マンション管理者に対して、加入の意識を高めてもらうよう周知するとよいのではないかな。

○他団体との連携

- ・仲介役として、外部とのコーディネートをしてほしい。
- ・まちづくりセンターが活躍して、きちんとつなげてほしい。
- ・札幌市から、学校や企業への協力・連携を呼びかける。
- ・地域のコンビニや企業が活動に参加する仕組みが必要である。

○条例の制定について

- ・条例などのルールが有るのは良いことだと思う。
- ・条例は理念だけで罰則がなければ、守らなくてもいいと思ってしまうと思う。
- ・条例などのルール作った後に、それを市民に周知していくことが重要である。
- ・条例というと固いイメージである。

○その他の支援

- ・アドバイザー派遣は良さそうである。
- ・外からの意見を取り入れるきっかけとして、必要な事業ではないかな。
- ・困っていることの共有の場に、札幌市の人に来て欲しい。
- ・補助金など、お金の支援があるとよい。

第4章 参加者アンケート

1 アンケート実施概要

本アンケートは、ワークショップの参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、次年度以降のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

- ・調査対象 : 「市民自治を考える市民ワークショップ」参加者
- ・配布・回収方法 : ワorkshop当日（平成30年1月27日）に配布・回収
- ・回収数 : 27名

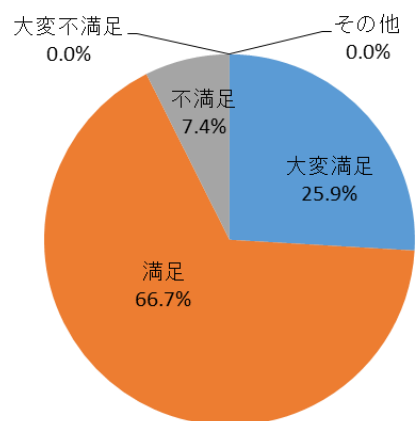
2 アンケートの質問項目と結果

【質問1】「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加した感想

「大変満足」「満足」が回答の9割を占める結果となった。

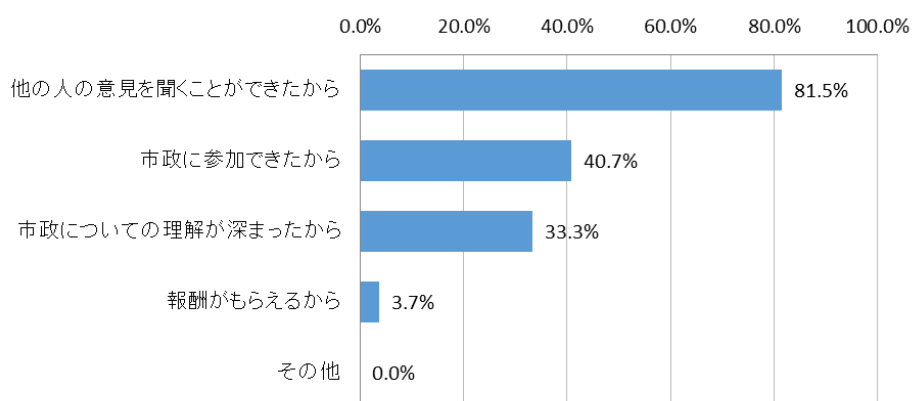
選択肢	回答数	割合
大変満足	7	25.9%
満足	18	66.7%
不満足	2	7.4%
大変不満足	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	27	25.9%



(2) (1) で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「他の人の意見を聞くことができたから」との回答が 22 名と最も多かった。次いで「市政に参加できたから」との回答が 11 名であった。

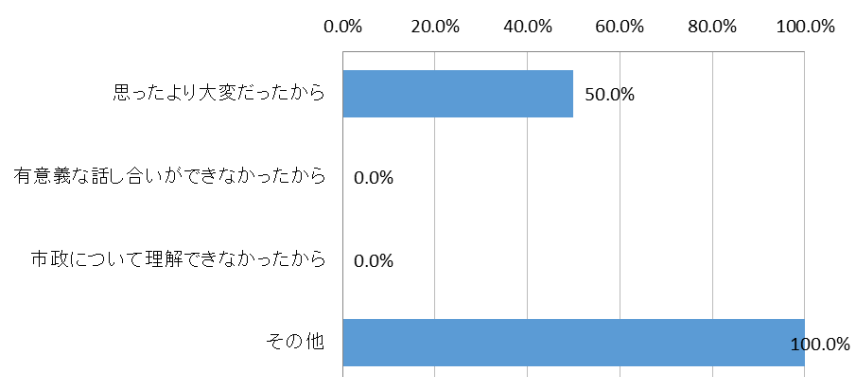
選択肢	回答数	割合
他の人の意見を聞くことができたから	22	81.5%
市政に参加できたから	11	40.7%
市政についての理解が深まったから	9	33.3%
報酬がもらえるから	1	3.7%
その他	0	0.0%
合計	25	



(3) (1) で「③ 不満足」「④ 大変不満足」と回答した理由（複数回答）

参加者のうち 2 名が「不満足」と回答している。その理由は「思ったより大変だったから」というものの他に、時間が不足していたことやワークショップで出したアイデアの実現性についての疑問があるというものであった。

選択肢	回答数	割合
思ったより大変だったから	1	50.0%
有意義な話し合いができなかったから	0	0.0%
市政について理解できなかったから	0	0.0%
その他	2	100.0%
合計	2	



※その他意見の内容

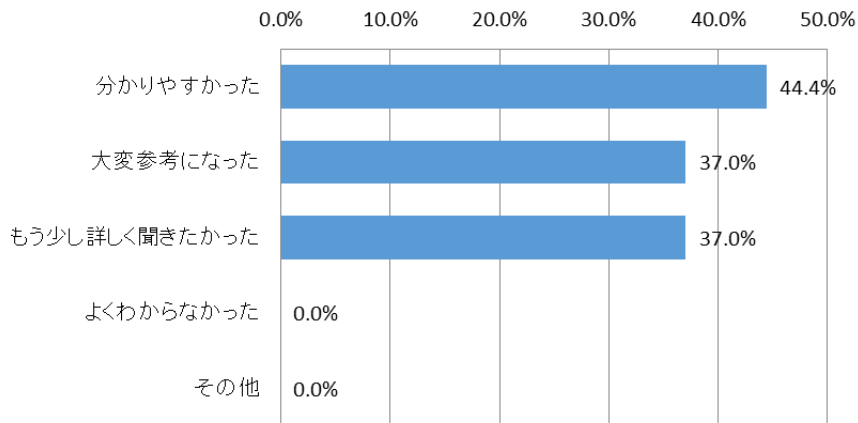
- ・提案したことが、実際具体的に動くかどうかあやしい。
- ・時間が不足。

【質問2】 情報提供について

(1) 町内会に関する基礎情報や役割、課題の情報提供について（複数回答）

「分かりやすかった」が最も多く 12 件であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	12	44.4%
大変参考になった	10	37.0%
もう少し詳しく聞きたかった	10	37.0%
よくわからなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	27	



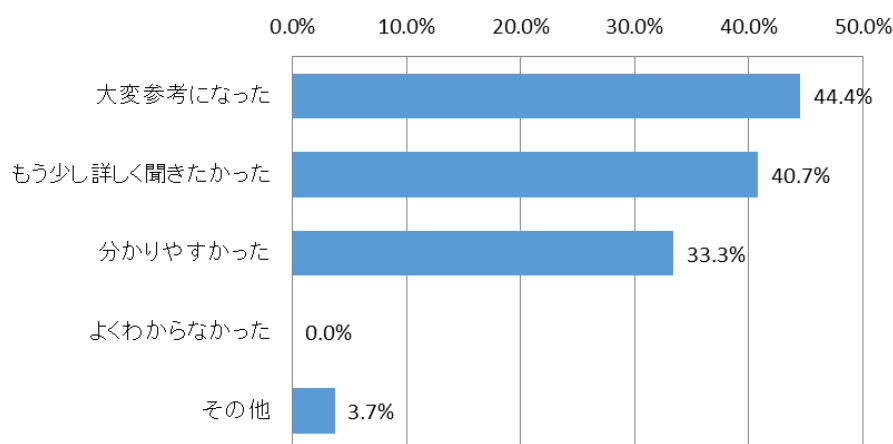
(2) (1) で「よくわからなかった」と回答した理由（自由回答）

「よくわからなかった」と回答した方はいなかった。

(3) 町内会の活性化に関する札幌市及び他都市の取り組み事例の情報提供について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

「大変参考になった」が最も多く 12 件、次いで「もう少し詳しく聞きたかった」が 11 件であった。

選択肢	回答数	割合
大変参考になった	12	44.4%
もう少し詳しく聞きたかった	11	40.7%
分かりやすかった	9	33.3%
よくわからなかった	0	0.0%
その他	1	3.7%
合計	27	



※その他意見の内容

・参考事例はもっとあって良いと思う。

(4) (3) で「よくわからなかった」と回答した理由（自由回答）

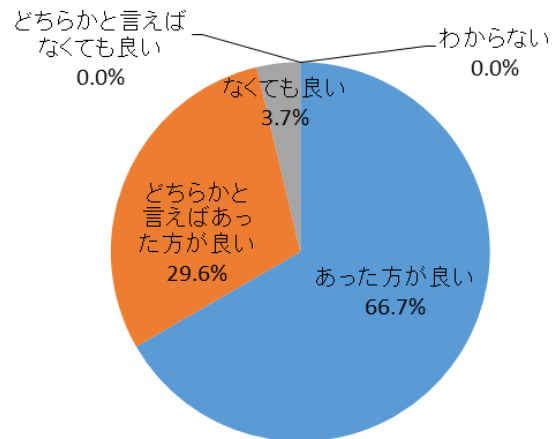
「よくわからなかった」と回答した方はいなかった。

【質問 3】 町内会に関する新たな条例の検討について

(1) 町内会に関する新たな条例の必要性について（複数回答）

「あった方が良い」「どちらかと言えばあった方が良い」を合わせると 9 割以上と、ほとんどの参加者が条例の必要性を感じている。

選択肢	回答数	割合
あった方が良い	18	66.7%
どちらかと言えばあった方が良い	8	29.6%
なくても良い	1	3.7%
どちらかと言えばなくても良い	0	0.0%
わからない	0	0.0%
合計	27	66.7%



※必要だと思う理由

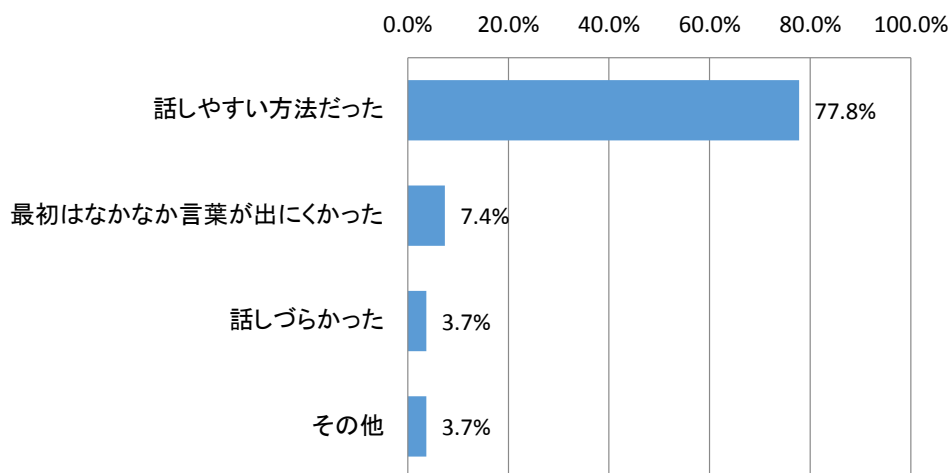
- ・ 条例があった方が守りやすい。
- ・ あった方がやる気になるから。
- ・ 町内会への強制加入。
- ・ ある程度、強制力（又は基準）を持たないと先に進めないし、好き勝手に生活してしまうと思うから。
- ・ 住民性をつかって、活発な活動にもっていく条例が必要。参加しないと損と思えるくらいにする。
- ・ 町内会をあり続けるため。
- ・ 町内会という組織が不透明であり、明確なものがあって、その先に枝分かれしていく中で自由な形の町内会へとなったら良いと思うから。
- ・ 町内会に加入するメリットをわかりやすくしてほしい。加入増につなげたい。
- ・ 条例があったほうが参加等しやすいと思うので。

【質問4】ワークショップでの話し合いについて

(1) 話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」が約 8 割と、ほとんどの参加者がワークショップについて話しやすかったと感じている。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	21	77.8%
最初はなかなか言葉が出にくかった	2	7.4%
話しづらかった	1	3.7%
その他	1	3.7%
合計	27	



※話しづらかった理由

- ・ホスト役が参加者の意見をコントロールできていなかった。

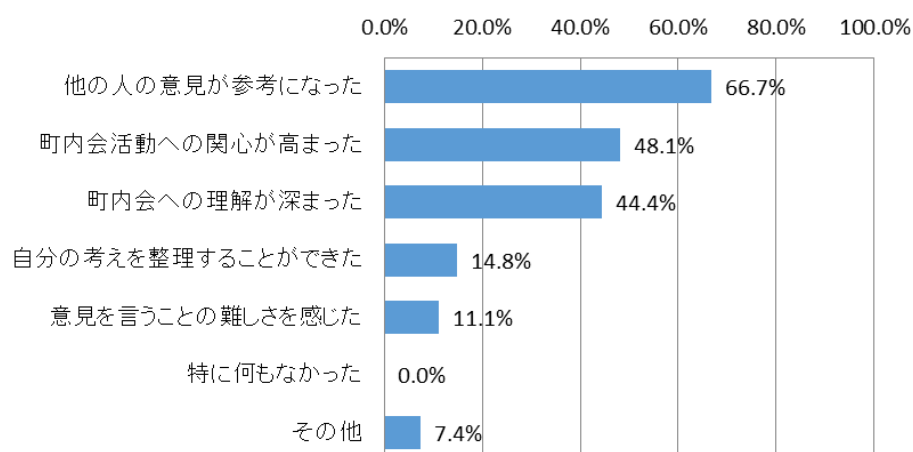
※その他意見の内容

- ・時間が足りない。

【質問5】 参加して得たものについて（複数回答）

「他の人の意見が参考になった」が最も多く 18 件、次いで「町内会活動への関心が高まった」が 13 件であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見が参考になった	18	66.7%
町内会活動への関心が高まった	13	48.1%
町内会への理解が深まった	12	44.4%
自分の考えを整理することができた	4	14.8%
意見を言うことの難しさを感じた	3	11.1%
特に何もなかった	0	0.0%
その他	2	7.4%
合計	27	



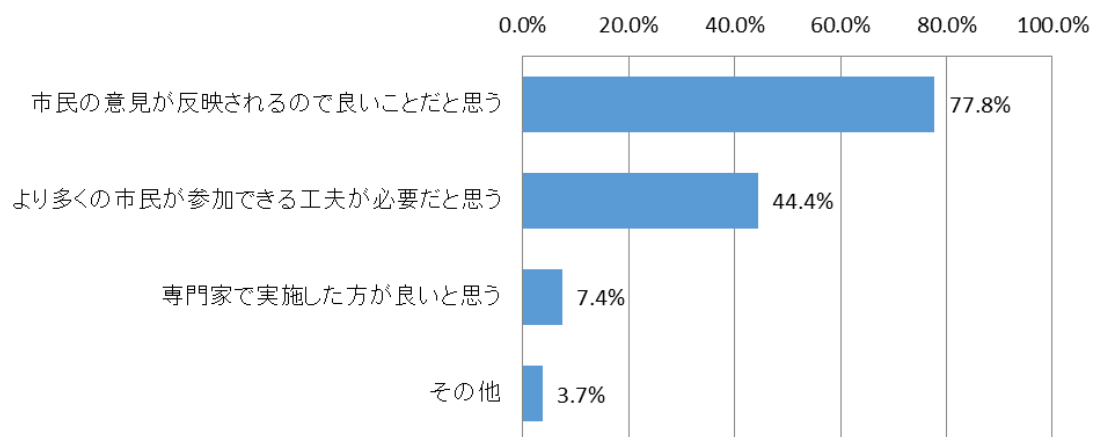
※その他意見の内容

- ・他の人の困っていることも理解できた。
- ・もっと機会が欲しい。

【質問6】ワークショップを実施することについて（複数回答）

市民が市政を考え、意見を出すワークショップの実施については、全体のおよそ8割が「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」と回答した。また、「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」という回答がおよそ4割になった。

選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	21	77.8%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	12	44.4%
専門家で実施した方が良いと思う	2	7.4%
その他	1	3.7%
合計	27	



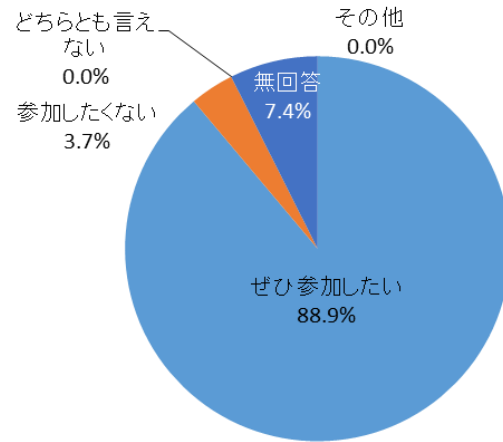
※良いと思う理由

- ・他の方々のご意見を聞く機会として良かったです。
- ・他の方の意見をきけたり、自分の知らなかったことも学べてためになったため。
- ・町内会の緊急課題が多すぎる。
- ・他の人の意見をもっと聞きたい。
- ・様々な方の意見を聞けるから。
- ・自分の意見が少しでも市政に反映されるから。
- ・他人の意見を聞くことができ、参考となる。
- ・もっといろいろな意見を聞きたかった。あつという間の時間でした。

【質問7】 今後の参加について

「ぜひ参加したい」という参加意識を持った回答者は全体のおよそ9割になった。

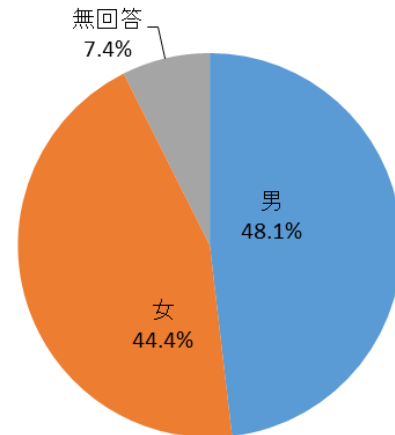
選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	24	88.9%
参加したくない	1	3.7%
どちらとも言えない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



【質問8】 参加者自身について

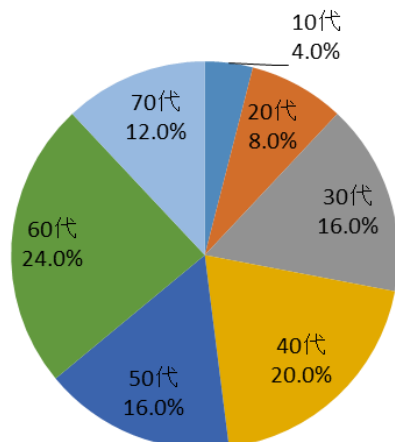
(1) 性別

選択肢	回答数	割合
男	13	48.1%
女	12	44.4%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



(2) 年代

選択肢	回答数	割合
10代	1	3.7%
20代	2	7.4%
30代	4	14.8%
40代	5	18.5%
50代	4	14.8%
60代	6	22.2%
70代	3	11.1%
無回答	2	7.4%
合計	27	100.0%



【質問9】 自由回答

27名中8名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

- ・進行の方が上手でした。
- ・初めてのワークショップでしたが話しやすく、参加して良かったです。
- ・楽しかったです。
- ・若者の参加が大切だと感じました。
- ・ひとつでも実施されることを願っています。
- ・費用の問題も有ると思うが、もっと機会が欲しいと考える。
- ・とても有意義な意見交換会でした。自分自身でできることから、町内会へ発信していけたらという気持ちが生まれました。
- ・グループわけを考えてほしかった。話しが出来る方と、出来ない方がいらした。

3 参加者アンケート結果のまとめ

(1) 参加者について

今回の市民自治を考える市民ワークショップはテーマへの関心の有無に関係なく、幅広い世代の市民の意見を抽出するため、住民基本台帳から無作為で選ばれた方に参加案内を行い、参加申込をした方の中から抽選の上、参加者を選定するという手法（プランニングセル方式）で実施した。

なお、無作為抽出にあたっては、あらかじめ、居住区や性別、年齢層ごとの構成比が札幌市の構成と同じようになるよう考慮して抽出した。

(2) 参加者アンケート結果

1) ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」をあわせると9割以上と、満足度が高かった。その理由としては、「他の人の意見を聞くことができたから」が81.5%を多く、次いで「市政に参加できたから」が40.7%であった。

また、話し合いの方法については「話しやすい方法だった」という回答が77.8%と高かったことから、参加者の多くは他の人との意見交換することについて満足度が高く、今回のようなワークショップ形式での議論が全体の満足度につながったことが伺える。

2) 情報提供について

情報提供について、「わかりやすかった」「大変参考になった」という意見のほかに、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も約4割と多かった。

情報提供②では札幌市内及び他都市の事例を紹介したが、「参考事例はもっとあって良いと思う」という意見もあり、情報提供の時間の見直しや資料の事前送付などの検討が求められる。

3) ワークショップについて

ワークショップを実施することについて、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」という回答が77.8%と多く、今後の参加意向も88.9%と非常に高かった。多くの参加者が、他の参加者の意見を聞いたことがよかった、もっと他の人の意見を聞きたいという感想を持っている。

また、参加して得たものについても、「他の人の意見が参考になった」が最も多い。このことから、参加者同士の意見交換の時間をしっかりと確保し、参加者全員から均等に意見を引き出すことの必要性を再認識できる結果となった。

加えて、「町内会活動への関心が高まった」「町内会への理解が深まった」という意見も約4～5割となっていることから、このワークショップを通じて、今後の町内会の活性化のきっかけにつながったことが伺える。

4) 町内会に関する条例について

町内会に関する条例については、「あった方が良く、どちらかと言えばあった方が良く」をあわせると9割以上となっており、新条例に対して前向きな声が多かった。

条例の内容としては、「加入促進」「町内会活動」「透明性・公開性」についてを記載してほしいという要望があり、そうすることで今後も町内会があり続けることにつながるという意見が出されていた。

これらの意見を踏まえて、町内会の条例について検討を進めていく必要があると言える。

5章 ワークショップの考察

今回の市民ワークショップでは、町内会の役割や今後のあるべき姿を共有し、町内会の活性化に向けたさまざまなアイデアが出された。

1 これからの町内会のあるべき姿について

(1) 町内会に求められる役割と町内会のあるべき姿

町内会に求められる大切な役割として、「除排雪」や「ごみステーションの管理」などの生活環境の維持、「安心・安全」や「高齢者の見守り」、「子ども・子育て」などの地域のセーフティネット的な役割、そして「交流事業」による地域の賑わいや魅力向上などが共有された。主に、ほとんどの町内会が現状も取り組んでいる役割の必要性が再確認された形となった。

それらの役割を町内会が担うことで、多世代がつながる機会が増え、「住民同士の顔の見える町内会」「交流・賑わい・見守りがあるまち」「住んでみたいと憧れるような町内会」といった町内会になっていくことが期待されている。

しかし、時代の変化に伴い、町内会がそれらの役割を担っていくことが困難になりつつあるという課題があるため、今後も取り組んでいくために仕組みなどの見直しが必要になることが考えられる。

(2) 町内会のあるべき姿に向けた必要な仕組み

今後懸念される人口減少や少子高齢化の進行などに伴い、これからの町内会に必要な仕組みについてアイデアが出された。

高齢者の見守りはこれからも必要な役割であることが共有されたが、今後進展が予測されている技術革新に合わせて、遠隔でも見守ることのできる仕組みを取り入れて地域一体となった高齢者の見守りに取り組んでいく必要性も確認された。

また、高齢者宅の除雪ボランティアについても、学生等の若者へ報酬を支払って取り組んでもらうなど、支え合いと合わせて若い世代の参加にもつながるような新たな仕組みの必要性が共有された。

加えて、幅広い世代の住民が参加する防災に関するイベントなどを通じて日頃からつながりづくりを心がけることの大切さが共有された。

これらのことから、町内会はこれまでの役割を担いながらも、時代の変化に合わせて多世代を巻き込みながら安心・安全な暮らしのための新たな仕組みづくりを行っていくことが、これからの大きなテーマになると考えられる。

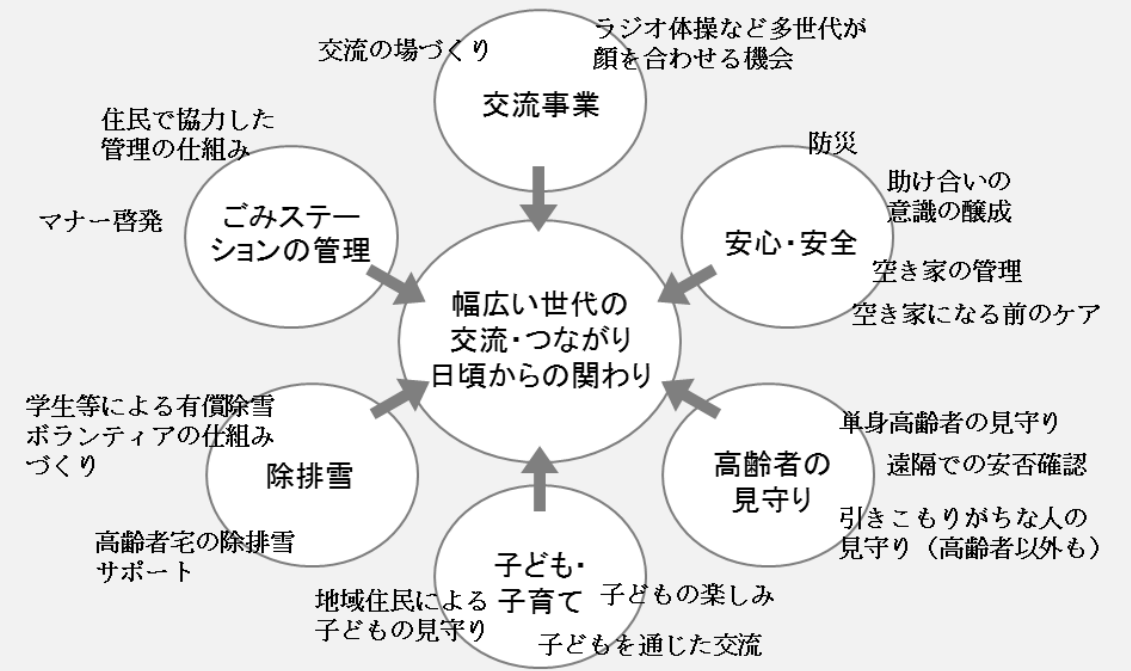
<こんな町内会になると良い>

住民同士の
顔の見える町内会

交流・賑わい・
見守りがあるまち

住んでみたいと
憧れるような町内会

<今後も含めた町内会に求められる大切な役割> ※主な意見



2 町内会のあるべき姿に向けた町内会と札幌市のやるべきこと

(1) 町内会のやるべきことについて

さまざまな社会課題が顕在化している中で、町内会のあるべき姿に向けて町内会がやるべきこととして、大きく4つのステップが挙げられた。

また、町内会の事業を行う上で、できることを無理なく取り組むという視点で「連携」についてのアイデアも出された。

今後は、少子高齢化や時代の変化に伴う担い手の確保の課題等、ますます町内会の運営が厳しくなることが懸念される。

そのため、町内会に求められる役割を担っていくにあたり、外注等により負担を減らしながら、自分達でできることを取り組んでいくということが、今後の町内会運営手法の一つになっていくことも考えられる。

町内会がやるべきこと（4つのステップ）

- ①町内会のことを知ってもらう（情報発信）
- ②加入や参加のハードルを下げる
- ③集まる機会や場をつくる
（テーマ型の交流や子どもとの交流など）
- ④役員や活動の担い手のハードルを下げる

×

無理なく続けていくために

- 他の町内会と連携した事業
- 隣の町内会との合併
- 事業の一部を外部委託
- 他団体との連携で情報発信
などサポートしてもらう

(2) 札幌市のやるべきことについて

町内会のあるべき姿に向けて札幌市に求められる役割として、「住民の加入や参加の後押し」や「交流の場づくり」、「他団体とのマッチング機能」「情報発信や意識啓発」などが挙げられた。

また、それらに取り組む場合、町内会に関する新条例などのルールや決まりごとがあると、町内会活性化の後押しになるという声もあり、多くの市民から条例などが求められているということが、意見交換やアンケート結果から読み取ることができる。

条例が制定される場合は、条例の中身の検討もちろん大切であるが、制定後の市民への周知が重要であるという意見もあった。

これらの市民の声を受け止めながら、町内会活動の後押しとなる条例の制定及びその周知をしっかりと行っていくことが、これからの札幌市の大切な役割として求められている。